

循環可能ごみ箱万博採用

県産の未利用木竹材加工

那賀ウッドなど提案

阿南市の竹や那賀町の木頭杉を加工して作られたごみ箱が、2025年大阪・関西万博の会場で使われる。地元木材の6次産業化に取り組む那賀ウッド(那賀町)が参加する企業グループが、環境に配慮した商品開発などのプロジェクトを提案し、万博の特別プログラム事業に選ばれた。



那賀ウッドが加工した木竹材を利用したごみ箱(同社提供)

企業グループには、那賀品などの製造を手がける那賀ウッドのほか、樹脂製パナソニックプロダクシ

期間中 林業体験ツアー企画

ヨンエンジニアリング(大阪府門真市)など4社が参加している。食品包装資材専門商社の折兼(名古屋市)が代表企業としてとりまとめを担っている。

ごみ箱(試作品)は幅24センチ、高さ28センチで、阿南市産の竹と町産の木頭杉の未利用材をパウダー化した原料で作っており、パウダーの製造を那賀ウッドが担当している。循環可能な自然素材を活用しているのが特徴。今後、日本国際博覧会協会(万博協会)の提携アドバイザーと、デザインなどの詳細を検討する。

協会によると、徳島の未利用木竹材に手を加え

て商品開発し価値を見いだした点や、多様な企業連携で今後も商品展開が期待されることが評価された。

特別プログラムは協会が企画するEXPO共創事業の「Co-Design Challenge 2024」。万博を契機に、循環可能な商品の開発や地域への誘客を狙いとする。全国から37の応募があり、那賀ウッドが参加する企業グループのプロジェクトを含む11事業が選ばれた。

那賀ウッドは25年4月13日～10月13日の万博期間中、那賀町で木製ボードを使ったスタンド・アップ・パドルボード(SUP)や林業の体験ツアーを数回実施することも提案した。庄野洋平副社長は「万博をきっかけに多くの人が徳島を訪れてほしい。山の良さや林業の魅力もPRしたい」と意気込んでいる。

(夏目潤)